

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が担当して、公開講座、研究所公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動を所外の方々に紹介している。また、リーフレット、ホームページなどでも紹介・広報活動をおこなっている。

1. 公開講座

犬山公開講座「サルを知る」

2010年7月31日(土)～8月1日(日)、京都大学霊長類研究所にて開講した。参加者は60名。

＜プログラム＞

7月31日（土）

司会：辻大和

開会の挨拶：松沢哲郎

講義：平崎鋭矢「サルの歩行からヒトの直立二足歩行の起源と進化を探る」

講義：平井啓久「遺伝子以外のゲノムがもたらす生物の進化」

実習：

形態学「骨学・化石実習」（国松豊）

遺伝学「ゲノム実習」（今井啓雄）

生態学「サル観察実習」（辻大和）

心理学「チンパンジー見学」（友永雅己）

8月1日（日）

講義：古市剛史「人類進化再考：ヒトはいつ、なぜ立ち上がったのか」

講義：松井智子「ヒトは人助けが得意な動物」

実習：前日と同じ

東京公開講座「サル・ヒト・人」

2010年9月25日(土)、日本科学未来館7階みらいCANホールにて実施した。参加者は186名。

＜プログラム＞

司会：大石高生

所長挨拶：松沢哲郎

講義：脇田真清「サルにことばがわかるか」

講義：古市剛史「類人猿ボノボ：メスたちの平和力」

講義：郷 康広「ゲノムを通して我が身を知る」

講義：川本 芳「ブータンのサルと人」

質疑応答

2. 第20回市民公開日

2010年10月31日（日）13:00から15:30まで市民公開がおこなわれた。内容は、古市剛史による講演「ボノボ：メスたちの平和力」と放飼場・展示資料室の見学だった。参加者は42名。

（文責：辻大和）

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2010年度のオープンキャンパスを、2011年2月21日、22日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会がおこなわれた。参加者は24名だった。

＜プログラム＞

2月21日（月）

開会の挨拶：松沢哲郎

各分科の紹介1

認知学習分科

系統発生分科

社会生態（生態保全）

社会生態（社会進化）

ゲノム多様性分科

入学試験説明

各分科の紹介2

実験動物科学分科

思考言語文化

高次脳機能分科

統合脳システム分科

ポストゲノム科学分科

進化形態分科

懇親会（夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った）

2月22日（火）

所内見学

各分科の教員との懇談会1

各分科の教員との懇談会2

（文責：辻大和）

VII 自己点検評価委員会報告

毎年作成している霊長類研究所年報の平成22年度版として、第40巻（2010）を作成した。これを冊子の頒布とホームページへの掲載の形で公開した。また、「中期計画・年度計画の進捗状況調査」等、京都大学本部からの各種調査依頼が計5件あり、所内外での聞き取り・記録閲覧・文献検索等を行い、報告書を作成して提出した。

自己点検・評価委員会：古賀章彦（委員長）、今井啓雄、友永雅己、渡邊邦夫

（文責：古賀章彦）